

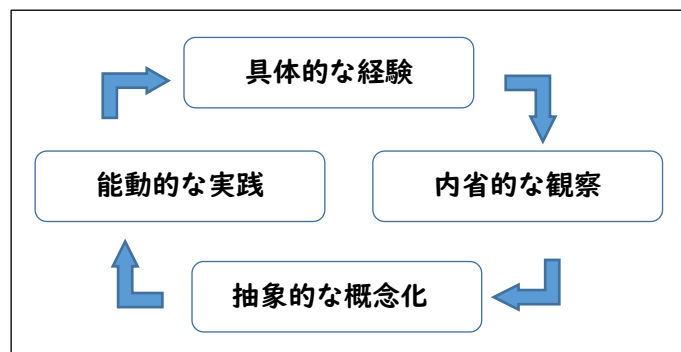
1-8 経験から学ぶ（コルブの経験学習理論（モデル））

私たちが学習・勉強というと、「知識を吸収する」「知識を覚える」「知識を表現する」というように「知識」を中心に考えがちです。

ところがビジネス界には、それとは少し異なる理論があります。「コルブの経験学習理論（モデル）」がそれです。

この理論（モデル）は、アメリカの組織行動学者デイヴィッド・コルブによって提唱された学習理論です。この理論（モデル）によれば、学習とは、「具体的な経験（体験する）」→「内省的な観察（振り返る）」→「抽象的な概念化（気づく）」→「能動的な実践（次の計画を立てる）」→（再び）「具体的な経験・・・」という動きであり、その継続が「成長」だということです。

つまり、無限に知識を吸収し続けることが「学習・成長」ではなく、自分で自分の体験を振り返り、そこで学んだことを言語化し、次の計画を立てて、再び新しい経験に挑戦していく…この繰り返しこそが人間としての「学習・成長」ということになります。



コルブ (Kolb) の経験学習理論（モデル）

これを具体的な学習の場面で考えてみると次のようになります。

<具体的な経験（体験する）>

実際に算数の問題を解いてみる。例えば、分数の足し算問題に取り組むことで、具体的な課題に直面する。⇒「 $\frac{1}{3} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4}$ 」を計算する。

<内省的な観察（振り返る）>

問題を解いてみたあと、「どうしてこの答えになったのかな？」と振り返る。間違えた場合には、なぜ間違えたのかを分析することも含まれます。⇒どうして $\frac{11}{12}$ になった？

<抽象的な概念化（気づく）>

問題を解く中で、他の場面にも応用できるルールに気づく。例えば、「分母を最小公倍数で揃える」というルールは、数学的思考の基礎となる。⇒分母を3と4の最小公倍数の12にする。

<能動的な実践（行動計画をつくる）>

学んだルールを次の問題に適用する計画を立てたり、自分で新しい問題を作成して解いてみたりする。⇒「 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{6}$ 」だったら分母はいくつにそろえるのか？

そして、このサイクルを繰り返すことで、算数（分数計算）の理解力や解く力がどんどん高まっていくというイメージです！

考えることが楽しくなると、次のような問題を考えてみるのもよいかもしれません。

問題：ピザを3人で分けました。2人はそれぞれ $\frac{1}{3}$ ずつ食べ、もう1人は $\frac{1}{4}$ 食べました。残りのピザはどれだけの量ですか？

このような身近な場面を使って考える力を育むことが、算数をさらに楽しくする鍵です！

さて、答えは分かりましたか？（ヒントはこの文章中にありますよ。それぞれの食べた量を足して、残りを計算してみてください。）